

## 総括研究報告書

1. 研究開発課題名：若年就労者に向けた健康日本 21 普及啓発のためのエンターテイメント・エデュケーショントランスメディアプログラムの開発と評価

2. 研究開発代表者： 河村洋子（熊本大学政策創造研究教育センター）

### 3. 研究開発の成果

本研究における理論的な成果として、**トランスメディアの概念を具現化し実践に活用する方法論構築に向けて基盤的な情報を提供したことがある**。現在、トランスメディアの概念は米国のマーケティング分野で戦略的に活用されており、情報技術（以下、IT）先進社会においてその有用性が示されているところである。この戦略は情報の拡散性を特長とし、そのため情報授受の過程で消費者主導主義をとり、複雑な情報を含むなど内容のコントロールが特に重要であると思われる健康保健分野や公的分野においては活用が難しいと考えられる。本研究はこの点に挑戦し、**健康保健に関する公益性の高い分野におけるトランスメディアの概念の応用と具現化した本邦初の事例を提供した**。

計画通りに短期集型の制御度の高いキャンペーン展開による実験はできなかったが、ソーシャルネットワークサービス（以下、SNS）や新聞やテレビなどのマスメディアによる広報活動や行政とのタイアップによる公共広告を含むヘルスコミュニケーション活動を展開した。この展開に沿って、インターネット上での反応をモニタリングするデータの分析を行った。基礎的な分析結果によるものであるが、健康と紐付けられない番組への出演といったマスメディアでの露出と連動する facebook への反応の増加が確認でき、トランスメディアの概念が実装されその効果が発揮されたことを示すものであると言える。

SNS への投稿の中身の分類、例えば「ユーモア」や「有名人との関連性」といった特徴、「健康に関連するか」などのテーマ、「動画か静止画か」というフォーマットなどと反応の関連性の検証が未完であり、平成 28 年度中に分析を完了し、情報の内容や特徴といったトランスメディア戦略の有効性を高めるための示唆の提供に繋げていく。その結果をもとに、健康日本 21 普及啓発キャンペーンの方向性の提案へとつなげる。この点は、**SNS などを活用した新メディアを含むキャンペーンの効果を検証するための基礎的な分析結果の提示することができた**という一つの本研究の**実践的な成果**とも関連するものである。

2つ目の実践的な成果として、**持続的な展開が期待できる職域健康づくり支援プログラムパッケージの完成をあげることができる**。2年目より開始した職域健康づくり支援ツールの検証結果から、ツール（「ロボリーマン手帳」を用いた健康に良いちょっとしたに取り組むワークショッププログラム）が、対象として意図した 30～40 才代の男性の健康行動に関連する意識喚起に効果的であることが明らかになった。健康行動の継続的实施までを保証するものではないが、健康づくり動機付けのステージに適しており、担当者からの非公式なインタビューからも職場の健康づくりの機運醸成に寄与したことも確認できている。

開発したツールの評価活動は協会けんぽ熊本支部の協力を得て進め、他にも職場の仲間同士で身体活動に取り組むことを促すことを目的として歩数を競う鬼ごっこ「チョビットラン」も共同企画・実施した。継続を望む声から平成 28 年度以降も継続の方向で検討している。

上述の職域健康づくりのためのヘルスコミュニケーションツールに関して、協会けんぽ熊本支部が現在取り組んでいる「スモールチェンジ事業」のメニューとして、取り組んでいる加入事業所に提案するとともに、それ以外の事業所に対しては担当産業保健師から提案し職域健康づくり支援ツール・パッケージとして活用される状態に至った。また、ツールの活用に伴う実施のマニュアルも完成しており、協会けんぽ熊本支部ではワークショップを産業保健師が実施できるように検討を進めている。今後、各都道府県の協会けんぽが活用可能なツールとして提案できるように熊本支部とも協議を進め可能性を探索していく予定である。

### 4. その他

特になし